

第1回「釧路森林資源活用円卓会議」(議事録)

日時：平成22年11月25日(木) 午前10時～12時

場所：釧路工業技術センター(2F 会議室)

出席者：委員 25名

オブザーバ(根釧西部森林管理署、
釧路総合振興局 林務課・森林室・くしろ地域支援室)
事務局(釧路市)

1 開会

(事務局)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。
た。

只今より、第1回「釧路森林資源活用円卓会議」を開催いたします。

私は本日の司会進行をさせていただきます、釧路市産業振興部産業推進室
長の石川でございます。よろしくお願いいたします。

ご覧のように本日の会議は、今までにない形で、少し試行というか、やら
せていただきました。皆様のネームプレートは木材の端材を使ったものを使用
してますし、正面には色んな形で工業技術センターが木材に関わって商品
開発や支援などをしておりますが、そういった商品などもオブジェ的に置か
せていただいた雰囲気作りをさせていただきました。もちろん机もありませ
んし、まさに円になってお話をしていただければと思います。釧路の木材資
源について、はじめて催しさせていただきます。

それでは開会にあたりまして、蝦名市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長挨拶

(蝦名市長)

みなさま、改めまして、おはようございます。今日は、第1回「釧路森林資
源活用円卓会議」ということで、石川次長のほうからお話がありましたとおり、
まさに、円卓というか、このような囲みながらの会議にお忙しい中、御参画を
いただきましたことに心から感謝を申し上げます。

あわせまして、日頃から、林業・木材産業の振興のためにご尽力いただい
ておりますみなさんに、敬意と感謝を申し上げます。

釧路市のこの豊かな森林資源を活用しながら、産業の活性化、地域の活性化に結び付けていきたいということで、今日、この会議を開催させていただいたわけでございますけれども、道の総合振興局、また、森林管理局のみなさまの参加も賜りまして、大変力強く思っている次第でございます。

この森林の活用というものは、やはり、環境をしっかり守っていくということで、様々な場面で言われてきたところでございますが、どうやって、具現化、具体化していくことが大事になると思っているところでございます。

もう2年前になるでしょうか、森林の経済波及効果は日本の分で74兆円、北海道でも1兆4千億円あるんですよという、そういった試算も出されているわけでございます。この森林を、山を守りながら、(整備を)すすめていくことがいかに地域にとって大事か、川上から川下までということですが、まさにそのとおりでございます。山を守るためには、まさに川下の海をまもり、水産も守る、そういうこともずっと言って、ようやくそういった認識もやっと出てきたのではないかなと思っています。

そういった中で、林業、本当にみなさまがご尽力いただいていたところでございますが、林業生産ということになりますと、どうしても、木がたくさんあるところに特化しており、消費地の中で木の議論がなかなかされていないというのが歴史的にあったと思います。

H17年の阿寒、音別との合併によりまして、この釧路市にも膨大な森林面積が生まれたわけでございます。10万1千haでございます。実に民地面積の7割を森林が占めている。そして、この釧路は、東北海道の中の拠点都市でありますから、都市機能もある。森林があり、消費地たる釧路市がそのなかで、しっかりとした林業、林産の活用モデルを気づきあげていく、これは、全道・全国的にも大きく発展すべきものだと考えているところでございます。

そういった意味でまさに皆様の、お知恵、御参画が経験に基づいた知識を活用しながら、この流れを結び付けていきたいと、こんな思いでございます。

わたしもちょうど、5年前、道議会の水産林務委員会の副委員長をしていたときに、足寄の役場を、建設中でしたが、見に行ってきました。町有林を伐採して、それで集成材を作り、その材を使って役場庁舎を作るところということでした。その後、いろいろなところを見てきたなかで、こういう取組みというのは、平成17年に北海道は「産消協働」という、道民宣言を行いました。

地元にあるものを地元で使っていきましょう、これは単に食のみならず、部材でも、ありとあらゆるものを地元のものを使っていこうという宣言をした。そして、この釧路市でも昨年4月に中小企業基本条例を策定しました。

このコンセプトになるものは、同じ「産消協働」、「域内循環」つまり、地産地消をさまざまな中小企業の場面につなげていこうという考え方でございます。まさにそういうものを進めて行く大きなチャンスになってくるのではないかと思っています。

木材活用の中で、どうしても「木は高い」とか、また消防法の問題が色々あるということも伺っているところではありますけれども、ロットが、量があれば、価格は、様々な形の中であわせていくことができると思います。

今までは「高くても、地元だからなんとかしましょう」ということで買い物をしてきたところではあります、だから途中で止まってしまふ。無理だということになる。やはり、ロットを出しながら、価格をあわせながら、そして、法律的な消防法の問題でありますとか、そういうところをクリアしていくことによって、木というものが長く使われることになるし、様々な場面で活用できることになる、それだけの蓄積された技術がある、このように考えているところでございます。

どうかそんな意味で、皆様方のそれぞれの分野の中での御知恵を拝借しながら、生産地と消費地も釧路というなかで、さまざまな取組みを進めていくようなアドバイス、また、方向性を示していただければありがたいと思っております。

色々勉強したいところではございますが、日程の都合上、言いつばなしで帰るわけではございます、全ての思い伝えるわけにもいきませんが、どうか、よろしく申し上げます。

今、流れは間違いなく、木を使っていこうという流れになっています。その中で、どういう取組みをいち早く進めることができるか、モデルになって釧路に林業の体制をしっかりと作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(市長公務の都合で退席)

3 委員紹介

(事務局)

それでは、ここで、御参画をいただいた委員の皆様のご紹介をさせていただきます。せっかくの円卓会議ということでございますので、マイクをお渡ししますので、順番に回しながら、自己紹介という形でお願いいたします。今日、ご参加をいただいているみなさま、全部で25名いらっしゃいます。1分ずつとしても、30分近くかかりますので、ご考慮いただきながら、お願いをいたしたいと思います。

(以下、各委員より)

おはようございます。「釧路地方林業会」の会長を仰せつかっております、丸善木材の鈴木です。製材の方、その他、木に関することを色々がんばっております。よろしくお願ひいたします。

王子木材緑化の三浦と申します。

私どもは、工場がございまして、製紙原料と全道各地に社有林があり、社有林の立場、使う立場、両方兼ねている会社かと思ひます。流通もやっております。色々な面でお世話になっております。どうぞよろしくお願ひいたします。

こんにちは、田中建設工業の田中です。

建築会社ということで、木材を使って、仕事をするという立場から、この会でまた勉強していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

大津製作所の大津といひます。

木製建具、家具のその業界9社の団体の「建具家具生産協同組合」というところの理事長をしております。その代表として今日は来たつもりです。業界のために役立てばと思ひ参加しました。どうぞよろしくお願ひいたします。

長谷川建築設計事務所の長谷川と申します。よろしくお願ひいたします。

私は、市内の設計事務所が10名ほど集まりまして、「北海道木質構造開発協議会」という会を平成5年に作りまして、それからずっと木材に関する、地域材活用、道産材活用ということでいろいろな取り組みをさせてもらっております。そんな関係で、今日のメンバーの中で設計事務所は私だけなんですけれども、今までの活動を基にしながら、これからまさに地域材を使っていく色々な取り組みに参加させていただきます。よろしくお願ひいたします。

おはようございます。近藤林業の長田でございます。

私のところは、森林資源の中で、一番川上の部分と申しますか、木を植える造林ですとか、造材という本当の川上の部分を担っております。それから、川中、川下ということで、そちらに対してどういう川上の仕事をしていけばいいのかということ、みなさんのご意見を伺いながら進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

大澤木材の大澤です。

私ども、本社機能は北紋方面にありまして、私は阿寒町に住んでおります。主にカラマツ製材、チップ、バイオマス。私どもの阿寒は特に森林の生産、素材生産事業という点をとって、高性能林業機械を入れて、いかに山から低コストで市場に出すか、そういうことを今進めておりますので、その辺も含めて、この会議でお話しできればと思っております。よろしくお願いいたします。

釧路工業技術センターの瀧本です。

木工を担当していて、今まで材の開発ですとか、最終的な製品を作るときの加工方法を技術センターにある、高周波プレス機ですとか、試験機、NCの加工機などを使って、試作などを企業様とともにやってきました。これからは、また色々勉強させていただき、皆様方にお役に立てるようにがんばっていききたいと思います。よろしくお願いいたします。

おはようございます。株式会社北都の山崎と申します。

今日は「釧路木材協会」の会長という立場で参加させていただいております。自分の会社は東北道の造材、造林、素材生産、森林整備を主にやっていて、川上に対しての提言が出来るのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。

おはようございます。阿寒町森林組合の代表理事を務めております、溝口でございます。大変お世話になっております。

森林組合は、ご存知のように主に造林事業を手がけております。これから遅れている間伐事業を促進し、優良材を作っていくように山づくりをしたいという気持ちでいます。あともうひとつ、釧路地区の指導林家の連絡協議会の会長も仰せつかっております。どうぞひとつよろしくお願いいたします。

おはようございます。旧阿寒町の建設業をやっております、小野寺組の小野寺と申します。よろしくお願いいたします。

当社は土木・建築をやっておりまして、林道工事、また建築工事での木材の利用ということで、川上のサポート、また、川下のエンドユーザーへということでやっております。この会議を通じて、林業にまつわるネットワークに対して勉強していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

おはようございます。くしろ西森林組合の澤田です。

今日は、菊池参事が来れなくなったもので、代理でやってまいりました。少し緊張しておりますが、よろしくお願いいたします。

おはようございます。音別から参りました、瀬戸建設の眞籠と申します。

私自身、森林のことはあまりわからないのですが、土木・建築をやっておりまして、建築の立場からモノを申してくれといわれました。自分自身勉強しながら、よい方向性を位置づけたいなと思っています。

土木に関して、小野寺組の社長さんが言われていましたが、土木で砂防などでも木で枠を組んでコンクリートを打っています。昨年、根釧西部管理署の砂防ダムの下請けをやらせてもらいまして、出来栄が良かったのかなと思っています。これから、音別も、釧路管内も木がたくさんありますので、鉄骨だけに頼らず、木も使って建てていきたいなと私自身思っています。よろしくお願いいたします。

みなさん、おはようございます。阿寒町で土木・建設業を営んでおります、さく田建設のさく田でございます(注:「さく」は、爰(えんにょう)に白)。うちでは、一般住宅をやっておりまして、木材を使うという意味で、どちらかというエンドユーザーになるのかなと思います。今日は、その辺も含めて勉強させていただき、知識をつけさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

おはようございます。市内で建設業をしております、昭海建設の石橋と申します。よろしくお願いいたします。

昨年来、カラマツを使ったセルフビルド可能なキット住宅ということで実験的に作らせていただきやっております。今週も虹別のお客さんが、自分で1年がかりで建てられて、完成するというので、土曜日に見に行く予定になっておりますけれど、是非、この円卓会議を通じて、実効性のある何か、みなさんとともにやっていきたいという気持ちで参加しております。

たまたま17日に東京のビックサイトで、ジャパンホームショーというものがありまして、建築のフェアでしたけれども、そこに木材関係の方々も北海道からもかなり出展されておりました。残念ながら、釧路地区は1社、1団体もおられなかったということで、少し寂しいなという思いでありますので、是非、来年に向けて動きのある会議にさせていただけたら、という風に思います。よろしくお願ひいたします。

日本製紙、釧路工場原材料グループ、家中と申します。

私どもは紙パルプの原料ということで、木材チップを購入させていただいております。不況の折、生産量が低迷しておりますして、取引先の皆様には色々ご迷惑をおかけしている状況が続いておりますが、本日は釧路の森林事業の現状を勉強させていただきまして、今後の参考にさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

ニチモク林産北海道の池田と申します。

私どもの会社は日本製紙社有林の管理と日本製紙に納めますチップの生産を主にしております。今回、このような会議に出席しまして、色々勉強になると思ひます。よろしくお願ひいたします。

山二伊東産業の伊東と申します。よろしくお願ひいたします。

私どもの会社は造林から造材、森林整備、森林管理など山に関する仕事は何でもやっております。所在地は、音別町なのですがすけれども、会社の社有林でもカラマツ等を造林しております。森林整備の環境整備に繋がるよう、今回の円卓会議が盛会に行われることをお祝ひ申しあげます。よろしくお願ひいたします。

阿寒湖にあります、前田一步園財団の新井田でございます。

私どもの財団では、阿寒湖の周辺に約3600haの森林がありまして、その経営・管理をしている団体です。今日のメンバーの中にも何人か川上サイド、森林サイドの方がいらっしゃるわけですがすけれども、私どもの財団は少し毛色を異にしておりまして、阿寒湖の環境を守るための森林経営を最大の使命としてやっておる財団です。

最近では、森林環境を守ることに加えて、癒しといひますか、森林の利活用、森林で学ぶだとか、そんな事にも少し力を入れ始めているところです。私どもでは、環境を守るということが最大の使命であります、森林を守るためには木は伐らなければいけないうことでもあります。

そのため、森林の手入れ、木材生産も併せてやっていかなければという観点で、参加させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

おはようございます。釧路高専の荒井と申します。

平成19年度から3ヵ年かけて、学校の校内に構造材、外壁、内壁、全てカラマツ材を使って、学生と一緒に、ここにいらっしゃる、鈴木さん、長谷川さんなどのお力もお借りして、建てております。是非、見ていただきたいと思います。その3年計画の事業が終わりまして、今年度に入りまして、色々なことをやっております。たとえば、カラマツ材を圧縮しまして強度向上を図ろうと、また、それに腐朽菌をかけて腐らせたらどうだろうかなど、そういうものの解析だとか、木造住宅の耐震解析、木造の耐震解析は今まで例がなく、コンピュータを使って解析するというシステムの開発中です。

あわせて素材の利用ということで、新たな未活用木材の集成材にもっていきこうという動きが帯広畜産大学を始め、いま、瀧本さんの力もかりながら、着手しているところであります。

これを機会にみなさんに色々な意味で地域材の有効活用に繋がるようなことに少しでもお力をお貸しできればと思い、参加しております。どうぞよろしくお願いいたします。

おはようございます。葵建設の佐々木でございます。

今日は、当社の山中社長の代理であります。当社は、「社団法人 北海道森林土木建設業協会」という団体に所属しておりまして、釧路では12社、参加しております。当社の社長が釧路支部長、私が事務局長をやっておりまして、協会支部として、どのように取り組むか勉強してまいりたいと思います。

おはようございます。阿寒農協の田中と申します。

酪農施設におきましても、木の牛舎というのが注目されておりますので、色々と勉強させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

マルセンクリーニングの中田と申します。

皆さんとまったくの業界違いでして、当社の取り組みとしまして、バイオマスチップボイラーを使っていまして、NEDOの関係の共同研究事業として、昨年度で実証試験が終わりまして、継続燃焼の方を続けている状況でございます。今日はみなさんの知識を勉強させていただきたいと思い、参加させていただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

おはようございます。釧路工業技術センターの綿貫です。

6月からセンター長を勤めさせていただいております。私は高校までは音別におったのですが、釧路に戻ったのが46年ぶりということでございまして、すっかり浦島太郎で、この地域の状況に一番疎いものが私かもしれません。みなさまと一緒に勉強する中で、うまく地域の木材産業を、みなさんのお力を借りながら、是非いい環(わ)を作っていきたいというように思っております。円卓会議ということで、是非ざっくばらんなご意見を出していただけたらと思います。よろしく願いいたします。

私は、雄別林業の大谷と申します。

実は私、15年前に喉頭ガンをやりにまして、声帯がございません。こんな声ですが、ご理解していただけたらと思います。よろしく願いいたします。

私は、雄別炭鉱の時代に、昭和33年に尺別礦業所に入社しました。それ以来、炭鉱の坑木を生産するために、人工林のカラマツをどんどん造林しました。その手入れから坑木の採材まで、長年にわたって携わってまいりました。カラマツの時代は必ず来ると思って、まい進してまいりましたが、炭鉱が無くなり、坑木の需要もなくなり、そのうちに誰もカラマツを見向きもしない、大根1本の値段とカラマツ25年生の1本のどちらが高いか、大根1本の方が高かった時代もございました。

そんな中で、カラマツはもうだめか、こんな何百ha、何千ha造林してきたのに、もうカラマツはこれで終わりか、そう思いながら、すごいショックを受けながら、携わってまいりました。

しかし、私はカラマツの時代は必ず来る、そう信じて、今でも造林に造材、間伐など、色んな自分の病弱な体を駆使して、今でも現場に行って、やっております。

カラマツについては、誰よりも情熱を持っているつもりでおります。どうか、カラマツのこと、みんなで、よろしく願いいたします。

(石川)

みなさんどうもありがとうございます。

この会議にはオブザーバとして、行政機関のみなさんにもご参加をいただいております。恐れ入りますが、三橋次長さまより順にお願いいたします。

(以下、各オブザーバ)

おはようございます。根釧西部森林管理署の三橋と申します。

よろしくお願いいたします。本日は署長が所用で出席できませんので、私が出席させていただいております。釧路地方では、国有林18万haを管理しておりまして、釧路市内では約4万haの国有林を管理しております。カラマツ・トドマツなどの人工林資源をどのように活用していくのか、ということを含めて、国有林としても地域の皆様とこのような場を通して、今後に向けて色々とお話しさせていただけたら、と思っております。よろしくお願いいたします。

おはようございます。釧路総合振興局林務課の竹田と申します。

林務課の中で、木材の関係と変わったものでは、特用林産のキノコまでを担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

同じく、釧路総合振興局の林務課長の小野でございます。

林務課は民有林行政を担当しておりまして、造林関係の補助金から、森林土木、治山、林道まで広くやっております。こういった地域の森林資源の活用というのは、大きな課題でございまして、この場が釧路のモデルとなつていただくこと、そういう場にもっていけたら嬉しいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

おはようございます。釧路総合振興局森林室普及課の橋本でございます。

森林室普及課は、支庁林務課と一緒にになりまして、今までは一般民有林の山づくり、川上の方に重点を置いて、いい山を作るための普及指導をやってまいりました。最近、川下の方にも役割を担うようになって来ました。今日はみなさまと一緒に意見を出していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

改めまして、森林室音別事務所長の赤川と申します。

みなさんご存知のとおり、私達の普及指導業務というのは林業経営改善のための技術や知識の普及・定着が主な仕事でありますけれども、最近では地域材を使いまして、木造の畜舎や地域材を使った住宅建設に関する理解を深めるためのイベントも数多く実施しております。どうぞよろしくお願いいたします。

釧路総合振興局くしろ地域支援室の鈴木と申します。

総合振興局の林務課、森林室とともに、釧路市さんの取り組みであります、地場産材の有効活用について考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

釧路総合振興局くしろ地域支援室の中村と申します。

今日は色々な分野の方のご意見を伺って、参考にさせていただきたいと思
います。どうぞよろしくお願いいたします。

釧路地方林業会の事務局をしております、安田と申します。よろしくお願
いいたします。

(1とおりの挨拶終了)

それでは、事務局を担当いたします、釧路市の方からご挨拶をさせていた
だきます。

釧路市の産業振興部長の星です。どうぞよろしくお願いいたします。

石川です、よろしくお願いいたします。

都市整備部の建築課を担当しています、香川と申します、よろしくお願いいたします。

商業労政課 高木です。よろしくお願いいたします。

音別農林振興担当の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

農林課の山根と申します。よろしくお願いいたします。

農林課の藤です。よろしくお願いいたします。

産業推進室の中山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

産業推進室の立原です。よろしくお願いいたします。

こういうメンバーで会議を進めてまいりたいと思います。

4 座長及び副座長の選出

(事務局)

これからの進めかたですが、先ほど、川下、川中、川上というお話もありましたとおり、それぞれのお仕事の関係、関わり方の関係で私どもの考えとしましては、川上と川下の部会をつくって進めていきたいなというように思っております。そうした中でまたこういう全体会の中でお話をいただきながら進めていきたいと思っております。今日は、関係者の方がこれだけいらっしゃるんだということも、またお分かりいただけたのではないかと思っております。

この会議を、私どもが進行するというよりは、やはり皆様方の中で進めていただきたいなという思いもございまして、座長あるいは副座長という形で進行役を選ばせていただき進めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか？

(賛成の声多数)

それでは、座長さんあるいは副座長さんをこれから選ぶわけですが、どのような形で選んでいけばよろしいでしょうか。どなたかお考えありますでしょうか？

(事務局からの案をうかがう声)

ありがとうございます。事務局の方では、皆様方の方に委員のお願いに参り、色々とお話をさせていただきました。そういった中で、私どもとしては、座長については、釧路地方林業会の会長でもあります、丸善木材の鈴木さんをお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(賛成の拍手)

ありがとうございます。それから副座長でございますが、試験研究機関ということで、今、皆様方の膝の上に載っている画板も端材を使って作っていただきました、様々な形で釧路の産業を支援していただいております、釧路工業技術センターの綿貫先生をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(賛成の拍手)

ありがとうございます。それから、先ほど申し上げた川上の部会、川下の部会、ということでございますが、こちらの方も私どものほうで御指名をさせていただきます。よろしいでしょうか？

(賛成の声)

ありがとうございます。それでは、川上部会長ということで、釧路地方林産振興会会長でございます、大澤木材の大澤さんをお願いしたいのですが、よろしいでしょうか？

(賛成の拍手)

ありがとうございます。よろしくお願いたします。それから、川下の方で、色々木を使ってということになります。こちらの方は、北海道木質構造開発協議会会長さんもされております、長く木材を使って設計をされております、長谷川さんをお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか？

(賛成の拍手)

ありがとうございます。それでは、こうした進行役の皆さんによって進めていって頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、進行役を務めていただきます、鈴木さん、よろしくお願いたします。

5 意見交換等

(鈴木座長)

ただいま御指名をいただきました、鈴木でございます。

私、昭和38年からこの木材業を40数年やっております。最初は、素材生産産業を3年ぐらいやって、山の中にいて、それから釧路に出てきました。大変厳しい木材業界であります。なんとか生き残っていきたくてということであり、川上の方々の知恵、その木材を上手にわれわれに供給してくれた、そういったことがあったから、今生き残ってこられた。その中で自分たちでもいかに付加価値の高い木材を作っていくのが我々の使命であります。

先ほど、石橋さんから東京ビッグサイトの話が出ました。北海道も一部ブースを使って、この管内のもの、道内のものを展示をさせていただいております。ただ、他府県があまりにも立派なブースを持ってやっており、北海道が目につかなかったのかなと思っております。

また、先ほど市長さんがおっしゃいました、阿寒、音別と合併をしましてから森林率が70%を超えたということでもあります。木材についても、品質の良い木材、きちんと間伐をされた林分、また、まだ間伐がきちんとされていない林分等あります。かなり太い林分もあり、上手に管内でも利用しながら、「循環をする森林」にするということが一番大切ではないかと思います。これが、ひいては雇用にも環境にもつながり、全ていい方向に向かうのではないかと思います。

今、考えている国の政策でも公共工事等における木材の利用推進がはっきりと、10月1日から決められました。公共工事における低層の建物では木材を使う、使わなければいけない、という法律が出てきました。予算の関係でどのような形になるか分かりませんが、我々はこれに大きく期待をし、また、山づくりをし、山から出てきたものをそれなりに価格にあったものを川中の製材工場に提供し、川中はそれを上手に加工して、川下の建設屋さんにも安く提供する努力をする。これが、一番の要点ではないか。

まずは、この管内の森林の状況がどのようになっているのか、事務局より説明をいただいてから、みなさんで検討していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(事務局の方から資料1 - 3の内容について、パワーポイントを用いて説明。)

(鈴木座長)

今、事務局の方から、大変分かりやすい説明がございました。木材団体の方はおおむねご理解をいただいたのではないかと思います。建設関係の方には、今、釧路管内の木材の動きというものがあるのか、成長量に対しての伐採が遅れている、まだ伐ってもよいというのが、釧路管内の状況だ、ということがいえるということです。帯広の方は、成長量以上に伐っている状況です。

簡単に申し上げますと、今、国は、国産材時代というのを打ち出しました。北海道は50%以上の木材自給率をもって進んでいるのですが、全国的に見ると、まだ77~8%が海外に依存している。

最近の大きな違いはロシアの方から丸太が入ってこなくなった。ロシアに依存する量、径級というのは大変なものであります。特に合板用の木材。そしてまた、南方の方からラワンで入ってくる、合板もだんだんと環境の問題で、入りが悪くなってきた。

それじゃあ、何を使おうかということになって、目をつけたのがカラマツである。北海道では、津別の丸玉さんが合板を使っている。このカラマツが、ロシアのカラマツとほぼ同等品の強度があるということで、これに目をつけたのが、東北地帯の合板工場であります。この合板工場へ各弊社さんが北海道から伐り出して、もって行く量というのが大変な量でありますから、釧路港、十勝港、苫小牧港からどんどん船で持って行く。

そのために地域の製材工場が原木を外にもっていかれ、カラマツの梱包用の原木がなくなり、その工場は今度、トドマツ・エゾマツの原木に頼らなければいけなくなる。そうすると、彼らはまたその丸太を買い集める。ただ、合板工場もトドマツ、エゾマツもつかえるものですから、これもまた、十勝港、苫小牧港から使われる。道内の製材工場向けの材が大変不足してきている状況であるというのが現状であります。

つい最近、我々の工場もそうですが、3日分の丸太しかない。昨日、苫小牧から来た製材工場の方は、丸太が無くて木、金、土と3日休んだのが2回あると話されていた。かなり、厳しい状況が今進んでいる。そういう中で、釧路管内の市有林をみていくと、上手に使っていくと、まだまだ、管内で循環をしていくことが出来る、というように思います。

この点については、川上の方での考え方、間伐の仕方、製品の使い方、そういうものは、みんなで検討していかなければならない題材だなというように思います。

まず、口火を切ってもらうのに、川上の方から。大澤部会長から現状をよろしくお願いします。

(大澤委員)

会議の論点の候補で、市有林ということで、全国的な話をするというより、地域のことについてお話をさせていただきます。

実は、このあとに出てきますが、22pの「釧路市内での林業・木材産業関連の動き」の2番目、先進林業機械の導入・改良費等ということで、うちの会社が、国が森林・林業再生プランを受けて、平成21年補正事業に応募したところ、全国35分の4に採択された事業であります。申請でなく、既に事業を実行しております。

その中で、先ほど説明にも出てきましたが、布伏内の釧路の市有林をこの補助事業を使って、釧路市から一銭もいただかず、間伐することになりました。

当面の川上の課題というのは、今までやってきた、チェンソーで伐倒して、トラクタで集材して、土場でプロセッサが枝払いをして、玉切りをしてというようなシステムを脱皮して、ハーベスタで伐倒して、フォワーダで出すというコンセプトでやろうとしています。先だって、市有林踏査をしてきましたが、過密林でありまして、伐採率は25%でやろうと思っておりますけれども、放置をしていた期間が多く、どうやって施業をしようか迷っております。

まずは、将来的に有効な作業路を、もちろんこれは林道ではありませんけれども、そういったものを路線を明確に設定してやろうと。道をつけるにしても間伐をするにしても、将来的な残存木をいかに傷つけないかという方法を模索しながらやります。

市況は、カラマツは足りない、足りない、の一辺倒。トドマツもそうですけれども。なるべく、採材技術を高めた有効な、1本の立木からいかに価格を上げられるか、そういった面で、素材生産を行う私どもは努力をしていかないと、市有林、森林組合さんが企画をされてやる施業についても、山持ちさんいかに還元していくのか、それを将来的にいずれ伐期が来て皆伐するときそこでまた造林してもらいたい意欲を持っていただくところにもっていくのが、川上の森林整備事業の課題だと思っております。

(鈴木座長)

ありがとうございます。説明の中に、間伐で音別地区が一番多く間伐をしているということでございましたので、この件について、伊東社長の方から音別の間伐の状況、販路についてお話をください。

(伊東委員)

音別の山二伊東産業です。所在地が音別ということで、旧音別町時代から、町有林、今は市有林になりますけれども、そちらの間伐事業は作業をしております。

かなり面積も広いです、専門はくしろ西森林組合の澤田さんがおられますけれども、やはり、手入れが遅れているというのが実情だと思います。釧路管内、間伐遅れが全体的にあると思います。

その中で考えると、小径木の活用がもう少し広がると、流通の面で良くなって、山の整備にも活かせるのではないかな、思うのですが、なかなか素材が動かないというのがネックになると思います。事業関係は、森林組合さんが計画を立てているのでそちらのほうが詳しいと思います。

(鈴木座長)

民有林については、森林組合の澤田さんが詳しいとの事、市有林については、これから、考えなければいけないということ、その辺をお願いします。

(澤田氏)

市有林の間伐は、手が入っているところがわりと多いかと思います。逆に伐期の来ている林分が増えてきて、これからのことを考えると、ある程度皆伐をしていって、造林を増やしていったほうがよいのではないかという風に思っております。

うちでは、白糠町と音別町とまたがって両方管理をしているのですが、音別でもまだ作業路が必要なところもあり、そういうところを優先して、やっていければよいと思っています。

(鈴木座長)

ありがとうございます。先ほど阿寒の森林組合のほうが少し間伐が遅れている林分が多いという話がありました。それについてよろしいでしょうか。

(溝口委員)

今、色々と説明いただいていたなかで、なるほど、そのようなことだなと思っておりました。その中で、旧阿寒町時代に、雄別林業の大谷さんの方からもお話がありましたけれども、やはり、炭鉱の全盛のときに広葉樹の伐採の跡に一斉にカラマツを植えた、そして一斉に手入れをしなければならない時期に入ったんですけれども、町の財政的なものから、市有林の場合間伐が進められなかった。

また、炭鉱がエネルギー政策によりなくなって、オイルに変わったというのがあります。一般民有林については、収入のない中で、国の補助金を入れても自己負担が発生するということで、それにはとても金は出せないということで、間伐が遅れたことは事実だと思います。

それで、私は4年前に今の役を仰せつかってから、環境の保全とか、水資源のかん養とか、森林の持つ多面的な機能を最大限発揮する森林づくりということを考えたときには、やはり、森林を間伐の促進を図りながら、将来的に間伐材を活用しながら立派な森づくりをしなければダメだということで、力を入れているところです。

今日はそこまでの話にはならないかと思えますけれども、今、くしろ西森林組合の澤田さんの方からもありましたが、ひととおりは町有林の間伐は回っておりますけれども、2回目、3回目と適時に行っていなかったということで、川上部会長の大澤さんの方からご指摘ありましたように、遅れているというのは事実です。

これから、川下の部会の中でもお話しあると思えますけれども、阿寒の方、うちのエリアの中では、前田一步園財団さんの立派な山も有ります。こちらの方に南に下がってきて、私どもが管理している山については、そろそろ伐期を迎えているところもありますけれども、一斉に伐採するということではなく、需要と供給のバランスをとりながら素晴らしい山づくりをしていかなければならない、持続性のある山づくりをしていかなければならない、と考えております。現状はこのような状況です。

(鈴木座長)

どうもありがとうございました。いずれにしても、間伐材については、全く捨てるところがない。という感じです。どんな林分であっても、どんな細かい間伐であっても、1次間伐であっても、2次間伐であっても、出てくるモノは、林地にほとんどクズが残らないというところまで色んなものに使えるような形に活用できる。

この先鞭をつけたのは、やはりマルセンクリーニングさんの中田部長の所ではないでしょうか。

我々、個人としては、これは本当に出来るのだろうか、チップやパークを焚いて、それが本当に持続的に続くのかなと心配をしたのです。

その、最初のきっかけというのは、どのようなものだったのでしょうか。

(中田委員)

平成18年に、段々と油の価格が高騰しまして、NEDOで共同研究で、2分の1の設備費用を研究費用として出して頂ける研究事業があるということで、色々模索しているうちに(たどり着いた)、日本全国バイオマスボイラーの導入が始まりつつありましたけれども、林業関係とは全くの縁のないクリーニング業者としては、チップボイラーの導入は、ほぼなかったです。

そのときに、だいたい同じ時期に旭川でもクリーニング業者1社が同じ規模のチップボイラを導入されるというようにききました。そちらも採択されて、平成18年度から開始される状況にありました。

実際は、クリーニング工場と言っても、リネン工場と言うことで大型の機械がたくさんあり、1日チップで20tぐらい、立米数で70~80m³ぐらい燃やしていくという、結構なボリュームでした。

最初はやはりうまくいかず、どう制御していくか、ということもありましたが、ここに来て、3年安定して供給していただいている状況で、ボイラーの方も継続燃焼している状況です。会社にとっては、やはり、経費削減が使命的なものがありますから、そこが担当者としてはやはり重要でした。それに加え、重油に代わりチップを焚くわけですから、カーボンニュートラルという観点から、温室効果ガスの削減にも同時につながるの、社会的貢献にも繋がるだろう、ということで社長に判断してもらい、導入に踏み切りました。

1クリーニング業者がチップを安定的に供給してもらえと言うことが、機械があっても燃やすモノがないとなると本末転倒になります。その辺はここに出席の王子木材緑化さんとか、北ガスサービスさんが平成18年度の3年前に、北海道の賦存量と木質バイオマス系の調査をされておられて、色々なご助言を頂きながら、導入に踏み切ったということでした。チップの安定供給を担保に機械導入をして、今、4年目に入ったところであります。

(鈴木座長)

ありがとうございました。まあ、今日の事務局の説明で、多くがカラマツということになってくるわけです。今日はトドマツの話は抜きにして、カラマツに特化をして、市有林、民有林、それから建築等々についてお話しをしていただきたい。先ほど荒井先生がカラマツ住宅を建てたという話をされました。その後の経過などを悪い面、良い面、その辺をお願いします。

（荒井委員）

まだ、正式に建てたわけではありません。平成20年の8月から建て始めました。実際には丸3年目に入っているところでございます。乾きの状態で少し、ゆがみが出てきているところもでございます。

ただ、建物はそもそも「北方型住宅」といって、高断熱、高气密住宅としております。簡単に言うと、非常に気密なカプセル型住宅を木造で造ったということになります。

外からの外気はある特殊な機械を使って、換気をするという方式を採っています。昨年12月23日に計測をしました。外は-12度でしたか、室内温度が最低で5度。で、1.5kwの小さな電機ストーブを1機入れると、だいたい17度くらいになるという、計測結果が出ております。性能には非常に優秀な住宅になりましたので、今後、色んな意味で使っていこうと思っています。

北海道の住宅は、今日もそうですが、室内温度が25度、極端な場合30度近くなる。われわれの今、考えていることは、もっと室内温度を全体的に下げ、人がいるところだけ暖房が入るような、スポット的な仕組みが出来ないかと言うことで、暖房エネルギー、主に電気エネルギーの2分の1を目指してやっています。

それからもう1点は、構造解析をやっているうちに、木材の物性というのがわからないということで、機械的な視野から見て、安定した強度を保證できる仕組みがない、木材に関してそうしておきたいということで、現在圧縮化を図ってどれだけ強度を増すことが出来るか、それとあわせて、腐朽、腐らせると強度低下を及ぼすので、それがどの程度影響を及ぼすのかと言うことを、継続的に試験をやっております。

それと、現在は新しい形での集成材、今はカラマツの話ですが、カラマツでなくて小径木、ほとんど利用されていないものを何とか構造部材として利用できないかということで、新たな「作る方法」を今考えているところです。

みなさんの色々なことをきいて思うのは、第1に木材を切り出して、我々が接するような家具だとか構造部材だとかで利用する、そこまでの間にインフラだとかを再構築しなければいけないようになってきているのかもしれないということです。

それから、市、道、国というところで、管理されている森を、今話題の規制緩和によって、「win の行動」といいますか、それぞれの方々の次の50年後の森林の体制に繋がるような、規制緩和が非常に求められているのじゃないかな、と聞きながら思いました。

そういうことで、カラマツを使う技術的なものはどんどん向上していくと思います。付加価値の高い仕組みが出来ると思います。じゃあ、それを安定的に供給するというのが一番の重要課題になるかなというのが、私の感想です。

(鈴木座長)

ありがとうございました。いずれにしても、地域材を使うということは、海外の木材を使うということと違って、地域への波及効果がはっきりと出てくる。雇用の問題もそうですし、それによって森林がしっかりとしたものになるということです。

ある日突然、カラマツで建物を建てようということで、問いかけてきた、石橋社長、カラマツのお話をしてください。

(石橋委員)

昨年、道の補助金を頂いて、カラマツ住宅を建てたので、その話をさせていただきたいと思います。先ほど鈴木さんから指摘を受けたビッグサイト、たしかに広くて、私も1時間ぐらいいたのですが、見られるものではないです。

私の友人が出展していたので、そこを中心に見てきました。それで、北海道は10団体出ていますが、旭川や紋別などの地名は出てくるのですが、釧路は出てきませんでした。

(鈴木座長)

北海道の「道木連」が窓口になって、釧路からもかなり出ています。道内の各地から商品が来て、設計に合わせてパネル化をうちの会社で行いました。これらを一気に持って行って、展示しました。

(石橋委員)

せっかくそれだけされているのですから、釧路の丸善木材だとか、PRしていただけたらと思いました、蛇足でした。

実は、なんとか地元の材を使って住宅を建てられないだろうかということでは、何年か前に構造材 1 式を道の方で提供するので建てませんか？という取り組みもあったのですが、そのときは構造材ですので、せいぜい 20 万とか金額にすればあまり大きなモノではなかったのです。それでも 20 万と言えば建築費としてはなかなかですから、それを活用しようと思ったのですが、見学会を何日かやりなさい、追跡調査をしなさいなど、金額の割には条件が厳しいのでパスさせてもらった。

今回は、カラマツを使ったコンパクト住宅で構造材から外壁・内壁までほとんど、断熱材は王子製紙のダンパックを使用しましたが、ほとんど 100% といっていいくらい木材系を使用しました。製作、図面化にあたっては、鈴木さんの所にだいぶん、ご相談させていただきました。

それで一般の方にも知らせるということで見学会をやったのですが、かなりの方に集まって頂きました。普段の一般の住宅見学会と大きく違うことは、中にはいると全部板材で、構造材も表しでやっていたので、みなさんビックリします。だいたい、外はサイディング、中はクロスというものがほとんどです。外側がカラマツ材、中にはいっても全部カラマツで、半分吹き抜けで作ってありましたけれども、みなさんにかなり好評で、「作りたい」、「使いたい」、「もう 10 年早ければ私は建てた」とか、言う方もおられました。

そのなかで、大きく、興味を惹いたのか、農作業の作業小屋として、現場の近くに建てて、休憩小屋兼、大家族で若い夫婦がいるので、そちらに住むなどの活用を考えられているようで、今回、虹別のお客さんも、3 世帯のなかの 30 代の若い方が手を挙げられて、そこに販売させていただきました。

その方が先ほども言いましたが、仕事の合間にセルフビルドを目指してやられました。セルフビルドといっても、パネル化しましたけれども、知識がなければなかなか難しい。プラモデルのように行かない。以前、そのお父さんがご自分で家を建てられたことがあるということで、自分もチャレンジしたいということで、このたび完成して、この週末の土曜日にうちの建築部長と行ってこようかなと思っています。

先ほど、木材の需要の話もありましたけれども、かなり、うまく一般の人に知らしめることによって需要は喚起できるという気はします。

それともう1つは、やり方で先ほど説明のパワーポイントを見ている、良い物を作るのは比較的出来るんですが、売る方が大変なのですね。どうやって売るか。

うちも「キット住宅セルフビルド」といいますと、ヤフーとグーグルで1位と2位に出てきますけれども、そういう工夫をして今年も5件、6件。この間も、東北の方から引き合いがありました。

作って、ただ、地元で見学会をやるだけでなく、やはり、道内、道外にどうやって知らしめていくかについては力が必要だなと、というのが実感です。

（鈴木座長）

ありがとうございました。今度は、川下の長谷川さん、お願いします。

（長谷川委員）

川下側でこの会議をどのような形で進めていくか、課題の検討方向のレジユメを作ってくれています。今、木材利用の動きとして大きいのは、「公共建築物への木材利用」ということで、10月1日から施行されている法律が出来ました。

このことによって、木造に関する基準、基準法的なもの、それから消防法的なもの、木材利用に向けた現実的なものに向かって色々な法整備もされてくるんじゃないか、木材利用の環境は整いつつあるなと思います。それに向けて、我々川下側が、私は設計分野なのですが、これが公共建築物としてどのような活用をして頂けたらよいか。

自治体で色々な公共建築物を企画する際に、やはり目的によって、構造・工法というのがあるなかで、今までは木造というと、公共建築物ではあまり耐火的なことがあったり、長持ちの問題があったりで、あまり活用されなかったわけですが、最近は、色々な世の中の動きに環境と言うことも見直されてきて、特に低層の公営住宅みたいなものは、かなり普及の途中にあります。

なおかつ、これから木材を使った公共施設ということで、どういうものが可能なのか、法律の説明の中に、これから低層の木造として考えられるものに福祉施設であるとか、教育施設であるとか、具体的に挙げられております。

そういうものを自治体が建築の計画があるときに考えて頂くような資料を作るというか、コスト的にはどうなのだろう、長持ちはどうなのだろう、材料の性質はどうなのだろうと、やはり公共建築でやるということは、かなり厳しい条件が要求されますので、そういった意味での基礎研究と言いますか、そのようなものが必要になってくるだろうと思っています。

川下側としてはそれにどのようなアプローチをしていったらいいのか、ということですね。それと、木材が地元にもたらず経済効果、コストの面でこれからは経済効果というものも考えていかなければならない。その面で果たす役割は木造は大きいのではないかと思います。それらを考えながら、公共施設の木造利用を組み立てていけたらと思っています。

もう1つは民間のなかで、カラマツの普及ということを考えるときに、カラマツが中心ということで石橋さんから色々お話しがありました。私どもも、先ほどあがった柱116本の補助事業がありまして、それを私どもの仲間が、3年間にわたって2棟ずつくらい、その補助金を使わせてもらって、建てて、展示するという事業を3年くらい続けてやってきました。それで自信を深めまして、それをやった設計事務所は、積極的にカラマツを使って住宅などを建てております。

実際に3年、4年たって経年変化を見ても、十分な乾燥技術等がありますので、あまり、材料的に狂いはでていない。先ほど、荒井先生の方から少しありましたが、カラマツだから曲がったというよりは、独立して部屋の中に建てていますと、どの木材にしてもやはり均一な年輪ではありませんので、狂いというモノが出てくることもあろうかとは思いますが、見え隠れ材で使うモノについては、狂いがないモノを作ることができる技術的な背景がある。

そういった民間へのPRとしての事業は、これまでも続けてきました。最近は大工さんが加工するというより、プレカットですとか、機械化の方が多いですから、カラマツというとどうしてもちょっと固い材料ですから、加工するのに苦労するかなと思ったのですが、その割にはみなさんあまり苦しんで使っているという背景があります。

一方で、カラマツという材料が、工学的にも、意匠的にも多機能な部材ということで、適度な強度もあり、柔らかさもあり、外に使ってもあまり腐れがない、そういった意味では建築材として非常にすぐれた材料だと思っています。

そういう材料の加工技術やヤニを取る技術など整理されつつある、ということと、これからどんどん押し出ししながら、民間に普及させていきたいという思いであります。

一方で、カラマツをPRしていく上で、やはりきちっとした資源的な背景、流通、加工技術、乾燥技術がきちっとあるということ、みんなに知って頂く、ポテンシャルとして高いモノがあるんだということ。

北海道の中でもこの地域の木造技術はかなり高いものだと思っております。そういうものを、地元だけでなく、外にも発信していけるものが、この中からも出てくるかもしれませんし、私どもとしては今までやってきたことを整理しながら、まとめて民間への普及ということを図っていきたいなと思っております。

（鈴木座長）

ありがとうございます。間伐をする場所がかなりあるということでもあります。高性能機械、または、間伐用の機械を入れて、間伐をしていくということのなかに、難しい面、また、やるところがあれば、どんどんやっていくよ、という考えがあるのか、この辺を山崎さんにおききたいと思えます。

（山崎委員）

先程来、話をされていて、市有林を中心にやって循環させていこうということで、くしろ西森林組合、阿寒町森林組合の方から今までやってきた経緯、色々とお話して頂きました。

その中で、これから市の山をどのようにやっていくのかということで、どんな施業をやってきて、どれだけの面積があり、森林簿だけでなく、実際はどんなのかということです。

それから、これから使っていく径級、伐り方。それからこれから国が進めようとしている高性能林業機械に則った路網整備をして、循環していくという考え方を今一度山を見て考えなければならぬのかなと思えます。

また、植えたときは50年後に皆伐すればいいという、考え方でしたけれども、今、生物多様性の問題も含めて、ただ伐ればという経済林だけの考え方でない部分もあります。

このため、いかにして経済林を循環させて、環境にも配慮するかということがこれから問われると思うので、路網を含めて考えて、循環をして出して、どのようにして市場で出すか、森林にも金額的に還元できて、造林して循環していくということです。

業界としては、みなさん、高性能林業機械を入れて対応できるべく、釧路の業者もなっけてきておりますので、十分可能だと思います。

（鈴木座長）

ありがとうございます。伐採をする、皆伐をする、植林をする、その中で一番問題になっているのが、ある程度の大きさになったときにシカに食べられてしまうという問題も大きく取りざたされています。この辺について、前田一步園の新井田さんをお願いします。

（新井田委員）

私どもの森林3600ヘクタール有ると、先ほどお話ししましたが、その1千haが人工林です。ほぼ100%がアカエゾマツの林です。その1千haもいわゆる一斉林的な人工林は300haぐらいしかありません。ですから、ほとんどが天然林とっていい状態の森林です。

その森林について、昭和の終わりから、平成にかけて、あそこは越冬地でありまして、鶴居、津別、足寄、白糠など周辺から11月以降、大変な数のシカが集まってくるころでした。そういったわけで、人工林というより、天然林の被害が相当ひどかったところでした。財団の方で平成のはじめに調査をしたところによると、ニレ類を中心に約3万立方から4万立方ぐらいの被害が見受けられた、ニレ類のほぼ7～80%は枯れてしまったという状態が続いていました。

それ以降、いろいろな対策をしました。色々な意見がありましたが、餌をやって、一部被害を減らすということ、本当に守りたい木は金網やネットを巻く、それから、最近はいわなにより、生きたままエゾシカを捕まえるという事業をやっていまして、今のうちのシカ対策の中心になっていますが、それで今年の春600頭を超えるシカをいわなでとりました。この5年でトータルで2500～2600頭のシカを確保した。その結果、われわれの森林のほぼエゾシカ被害は抑えてきています。

シカが増えてきている中で、また、被害が増えてきている中で、研究者にいわせると、北海道で唯一被害を減らしているところだ、という評価をうけています。これはわたしどもの森林の話でしたが、エゾシカ被害というのは次の世代の引き継ぐべき小さい木を中心に甚大な被害となるわけですから、将来的な森林の保続という意味で、心配をしているところです。

エゾシカ被害に対する効果的な「一発、これだ！」という対策はなかなか見つからない、しかし、道の方でも力を入れた対策をしていますし、国有林さんも力が入ってきていますから良い方向に向かうのではないかと、そんな希望を持っております。エゾシカ被害というのも非常に厳しいモノです。

(鈴木座長)

ありがとうございました。このほか、どなたかご発言をいただけますか？

(溝口委員)

名簿をみて、すぐ感じたのですが、洗濯屋さんがここに来ているというのが、ちょっと挨拶に行こうかなとも思ったのですが、(ここでお話しします)。仲介してくれる方がいて、生木のまま間伐材をチップを1日トラック3台送り込まないとならないと言う話をされていました。私どもとしましては、これから、持続的にそういう分野の仕事を伸ばしてもらえればと思っています。

昨日から7.5haの間伐を4残1伐で行っています。総合振興局の林務課さんからは林外に搬出すれば、搬出の補助の対象になりますとの話をいただいて、そのようにやっています。

今までは切り捨て間伐ということで、周りからももう少しなんとかならないかということをおっしゃっていただきました。先ほど伺って、是非使って欲しいと思いました。

このように円卓で色々な人と巡り会うことで、色々なことが分かるし、知恵も出てくるのかなと思います、ぜひ長く続けて欲しいなと思いました。

(鈴木座長)

ありがとうございました。まだ、ご発言されていなかった、綿貫センター長さん、いかがでしょうか。

（綿貫副座長）

私、副座長ということで仰せつかりました。鈴木座長がどうしても来られないというときが出番かなと思っています。今日は顔合わせが主でしたが、非常に有意義な2時間だったのではないかなと思います。

特にカラマツということに絞って、後半は、みなさん御議論いただきました。釧路工業技術センターは、試験研究機関で参加ということもありましたが、むしろ、試験研究そのものよりも川上、川下のつなぎですね、ニーズ・シーズといってもいいのかもしれませんが。そこででてくる技術、高専の高橋先生もいらっしやいますし、技術的には具体的な何かがあればフォローできるであろう、カラマツは優秀な材料だということの再認識をしました。

私の知っている限り、カラマツは不幸な生い立ちというか、材料としてはダメではないかというようなところから始まって、成熟材が出る中で建築材としてもすぐれた性能があると、最近、見直されてきたと思うのですが、若干、イメージ的にはマイナーな面もあるのかなと思います。

その辺をクリアするという、あとは、川上、川下の間の、販路とかビジネスとか、経済的なこと、いかにして売り先を見つけていくか、そこがクリアになってくれば、両方とも成果が出てくるのではないかなと思います。

できれば、そのあたりの情報を集めて、視点もクリアにしていければと思います。色々なお方のお話を聞いて、2回目、3回目、非常に楽しみになるのではないかと、と思っています。よろしくお願いします。

（鈴木座長）

ありがとうございました。ちょうど時間になりました。市有林を上手にいかして使っていくということが一番大事なことはないかなと思います。そして、それが市にとってプラスになるモノでなければならぬと思います。今日はみなさん、色々なご意見を頂きました。不慣れな進行の部分、お詫びします。それでは、事務局にマイクを返します。

（事務局）

ありがとうございます。非常にフットワークのいい座長さんで、事務局の方でマイクをお渡しできなかったところ、次回に向けて工夫していきたいと思えます。

今日はざっくばらんななかで自己紹介をしていただき、関係者の方がどんな方が分かって頂き、ほんの少しですがお考えをご披露頂きました。

今後は1月頃部会を開かせて頂いて、その部会構成は、みなさんにご理解頂き、ご承認を頂き、選出頂いた部会長さん、あるいは座長さん、副座長さんとご相談をさせて頂きながら、決定させて頂きご案内を差し上げるということで進めさせて頂きたいと思います。いかがでしょうか。

(良いとの声)

ありがとうございます。

木材を活かして利活用を図るというのが目的であります、その木材を一番使う消費者の方、ニーズをもっていらっしゃるの、一般市民の方でして、そこにここにお集まりの皆さんの関係者としての役割も在るということだと思えます。そうしたことから、この円卓会議について、まさに円卓会議ということで、必要に応じて臨機に参加者を追加するなり、集合する方の選出をさせて頂くなど、座長、副座長含めて相談させて頂きたいと思います。

どんどん、市民の皆さんに情報を発信していきたい、と思っていますので、ご理解を頂きたいと思います。

それでは、本日はこれもちまして終了させて頂きたいと思います、ありがとうございました。

(終了)